

カトリック仙台司教区・カリタスジャパン 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax.022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

6月24日(日)、岩手県沿岸部にあるカリタスジャパンの4ベース(宮古、大槌、釜石、大船渡)が合同で炊き出しを行う「ご当地グルメ祭」が岩手県大槌町小釜にある第6仮設住宅の駐車場で催されました。

第2回岩手県沿岸4ブロック 合同イベント ご当地グルメ祭 in 大槌

4月、釜石でのグルメ祭に続く2度目の開催で、今回は、大槌ベースの担当。大槌では、祭で使うテントも多くが津波で流されたので、各方面に声掛けして確保しました。また、炊き出しでも無料ではないほうがいいとの行政の声を受け、今回は値段をつけて販売しました。ベースメンバーは、食材や調理器具などを積んだ車で8時ごろ会場入りし、準備を開始。薄曇りの空の下、吹く風も冷たく、客足を心配するボランティアもいましたが、日曜日とあって、11時の開店前から様子を見に来る子どももいました。正午頃には各テントに行列ができるほどの盛況ぶりでした。



最初は祈りから

20人の高校生ボランティアの活躍が輝いた「九州物産展」



長崎教会管区による大槌ベースは、九州から取り寄せたうどん、わかめ等の物産、新鮮な魚・野菜を販売しました。ベースのメンバー30人中、20人を占めた高校生たちも接客し、野菜など、1時間も経たないうちに完売したのもありました。

大槌ベースでは、51ある大槌の仮設住宅のうち、小規模のベースを優先的に訪ねています。スタッフの野田和馬さんは、この日、半年ぶりの再会を喜び合った人がいたそうで、支援先以外の仮設の住民も訪れるこの祭は、地元の人に会ういい機会にもなったと話していました。

「ジンギスカン」完売の後も、炭火の周りに人が集い……

札幌教区が支援する宮古ベースは、北海道名物「ジンギスカン」。北海道で仕入れたタレ付きラム肉20キロを炭火で焼きました。炒めたモヤシ、キャベツに肉を加え、タレをしみこませるのがコツとのことで、一皿100円、200皿分が1時間半で完売しました。その後も、隣の大槌ベースのテントで購入した



アジやサバを炙り、他のベースメンバーに振る舞うなどして、売り場は終始にぎやか。会場近くで別の活動をしていた関西の学生も加わり、生イカを購入。周りの人とおしゃべりしながらイカを炙り、味わう学生たちの姿に、ボランティアの柳澤辰也さん(60)は、頼もしそうに目を細めていました。

釜石ベースは縁日で楽しく

釜石ベースは、縁日を開催。ヨーヨーすくい、ホットケーキを焼くコーナーや、フランクフルト、いもち等を準備しました。いもちは、長崎・五島から届いたじゃがいもで手作りました。仮設住宅の周辺には、子どもの遊べる場所があまりないので、この縁日を子どもたちのために企画したそうです。スタッフの伊瀬聖子さんは、「去年は、(地元のお祭りはすべてなかったから。ボランティア同士、楽しみながらできるのもいいですね」と話していました。町内の他の仮設住宅から2歳の孫を連れて来た山崎富子さんは、ボランティアに声掛けされ、スーパーボールすくいに挑戦。最初は見るだけだった孫が思いのほか上手にすくっていく様子に、山崎さんも、ボランティアも大喜びでした。



大船渡ベース、「たこ焼き」と「三線」で大活躍



大阪教会管区が支援する大船渡ベースは、たこ焼きを1舟100円で提供しました。前回の祭で、焼けるまでに時間がかかった反省から、今回は、開店前までに一定量のたこ焼きを用意し、開店前から来た人には整理券を配るといった工夫も。ところが、予想を超えるお客さんを迎えて、テントの中は大わらわ。商品を間違いなく渡そうとボランティアは懸命でしたが、お客さんたちは、そんな活気あふれるテントでの買い物を楽しんでいました。用意した200食は、完売。一段落ついたところで、有志メンバーが沖縄の弦楽器、三線(さんしん)などによる演奏も披露しました。

子どもからお年寄りまで、さまざまな世代が同じ場所で、料理を味わいながら集えるグルメ祭。次回は8月、大船渡で開催予定です。



カトリック新聞記者 伊藤淳子